



福島県各地に、
全国から様々な形の応援が寄せられています！
そんな頼れる皆さんからのメッセージをお伝えします。

福島へのラブレター

リレーエッセイ

あなたの大好きな日常は どんなパーツでできていますか？

社会福祉法人神戸市社会福祉協議会
災害ボランティア活動支援プロジェクト会議
長谷部 治

ブルーハーツを聞きながらの日曜大工。朝のラジオでニュースをチェックしながら台所で妻と息子の食事作り。晩には控えめにコーラを飲みながら家族全員で魚中心の晩御飯。夜が更けたら絵本を読み聞かせながら子どもたちと一緒に眠り、夜中に起きだしたらキュウリを丸かじりしながら深夜番組を見る。嫌なことがあった日は元気を出そうとプリンを食べ、嬉しいことがあった日は自分へのご褒美としてプリンを食べる。たいしたことはありませんが、こんなひとつひとつパーツの積み重ねがぼくの大好きな日常です。

皆さんの大好きな日常はどんなパーツでできているでしょうか。

家庭、仕事、趣味…。僕ら災害ボランティアセンターの運営支援者は、あの日に突然失われた皆さんの日常を「少しでも多く」「少しでも早く」取り戻していただくため、過去例のないほどの大人数のボランティアの皆さんと汗を流しました。もちろん、現在も多くの仲間が汗を流しています。活動の区域も内容も多岐にわたっています。「泥だし」をするだけが災害ボランティアセンターや復興ボランティアセンターではなく、日常生活を取り戻すためのあらゆる取り組みが僕らのそばにありました。

しかし、とても残念なことですが日常を元通りに取り戻すことはかなわないでしょう。だけど、あの日始まった新しい日常も含めて、皆さんの暮らしがより良いものになる可能性はちゃんとあるのです。

新しい暮らしを隣人と紡いでいくためにはほんの少しの工夫が必要です。あなたの大好きな日常はどんなパーツでできていますか？言葉や仕草にして僕らや隣人に知ってもらうことが、新しい暮らしをより良いものにしていく第一歩かもしれません。僕はこれを「自分を開いていく」と表現しています。長年関係をもった間柄ならば、とりわけそのつもりがなくとも隣人の好みが変わってくるでしょう。しかし、今は急な生活再建の場面です。あえて「自分を開く」ことで、あなたの友達がご近所に増えていくのではないのでしょうか。



国際ロータリー オーストラリア地区
青少年交換委員長
クリストフ・
フェイチェンシュレガーさん
(福島県の被災した高校生21名をオース
トラリアに3週間の招待をした主催者)

今回の震災、原発被害に関しては、偏見なく勇気を持って様々な可能性を考えることが出来る人達が必要です。私たちが、少数でも被災地から高校生を受け入れることで、彼らが3月11日からの体験や思いから少しでも距離を置き、自分の生活や状況を客観的に見る機会を提供することで、日本に対してお手伝いが出来るのではないかと考えました。オーストラリアでの時間は互いを更に深く理解し合うための有意義なものでした。高校生たちが少しずつ笑顔になっていくのがとてもうれしく、日本の更なる発展、将来に彼らが一躍を担ってくれると感じました。



龍谷大学 教授
筒井 のり子さん
(大阪在住)

本紙の編集のお手伝いや生活支援相談員研修に関わらせていただいています。4月中旬頃に京都から夜行バスで生まれて初の福島入り。明け方に窓から見た会津の山々の雪景色に、福島市に入ると桜色の山々の美しさに息を飲みました。本当に「うつくしま」だなあと思いました。以来、春・夏・秋と計12回も伺っています。行く度に温かな方々やおいしいものに出会い、また行きたくくなります。行く度に厳しい現実や不安を知り、また行かねばと思います。もうすぐ厳しい冬ですね。冬にもきっと。遠距離恋愛のように…。

ボランティアの皆さんへ

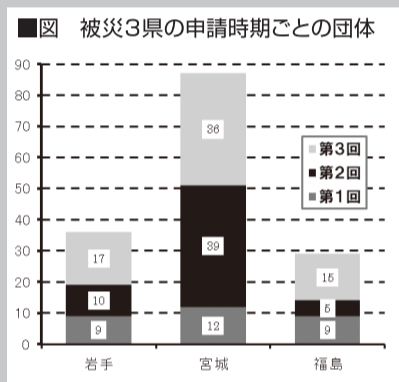
活動資金で困っていませんか？

～赤い羽根共同募金の助成(第5次)・(第6次)受け付け中



県内のボランティア団体の方は、震災後しばらくは活動を再開できなかったところが多いと思います。でも、徐々に取り組みを始めておられるのではありませんか？活動資金は大丈夫ですか？

「災害ボランティア・NPO活動サポート募金」による助成の第5・6次の受け付けが始まっています。(第1次)から(第3次)までの被災3県内の団体への助成状況は図の通りです。やはり、宮城県がずば抜けて多いですが、福島県も徐々に県内団体への助成が増えていることがわかります。



応募期間

- 第5次:平成23年10月10日(月)～同年11月30日(水)
助成決定時期:平成24年1月下旬(予定)
- 第6次:平成23年12月10日(土)～平成24年1月31日(火)
助成決定時期:平成24年3月下旬(予定)

送付先・照会先

社会福祉法人 中央共同募金会 企画広報部(ボラサポ担当)
☎03-3581-3846

詳しくは、応募要項を

http://www.akaihane.or.jp/er/pdf/v_fund_obyoko_ver2.1.pdf

こんにちは、生活支援相談員です！

飯館村社会福祉協議会

私たち生活支援相談員は、飯館村社会福祉協議会6名と県の絆づくり応援事業5名から成り立っており、5グループに分かれて活動しています。年齢は30代から60代と幅広い組み合わせで、パワフル！かつ情に厚くて愉快的な仲よしチームです。

毎日、各仮設住宅を訪問していますが、村での生活とは180度と言っていいほど違った状況に心を痛め、不安を抱えているのがひしひしと伝わってきます。

この心の問題を解決するために、村の災対チーム・包括・保健師、その他関係機関と連携を取り、そして、村民の心に寄り添う気持ちを忘れない支援活動を心がけています。

3ヵ月活動を続けてきた今、温かく迎えてくれる

村民の笑顔を励みに、村に戻れるその日まで、笑顔と笑顔を繋ぐ訪問活動を頑張りたいと思います。



後列左から 青木弥生、佐藤昇、佐藤光子、大澤恵美子、加賀美孝俊、菅野一代 手前左から 阿部留美子、赤石澤菊代、菅野純子、佐藤照子、赤石澤秋子

編集後記

周囲の山々が美しく色づき、赤や黄色に彩られた木々たちは放射線などまるで関係がないかのようです。やがて冬の季節の到来です。初めての土地で冬を迎える皆様、どうか体調管理に気をつけてお過ごしください。(今関稔子)

最新情報はホームページで
ご覧ください！

<http://www.pref-f-svc.org>



がんばろう、日本。
がんばろう、東北。

がんばろう、福島。

次号は11月21日発行です。